

令和元年度補正・令和3年度補正

ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金

有限会社ミサキ自動車

- **事業**
環境と人に優しい水性塗料100%使用の自動車修理工場への進化
- **対象類型**
革新的サービス
- **導入機械装置**
乾燥ブース マックスコンバート/MC-201WH

経営理念

有限会社ミサキ自動車は、
「仲間のため」「家族のため」「世のため、人のため」
に全力を尽くします。

自動車をトータルサポート 高い技術力と充実した設備が好評

自動車整備業の有限会社ミサキ自動車は1990(平成2)年に出雲市で創業した。新車・中古車の販売から整備や板金修理、保険の取り扱いなど、車を使う生活を丸ごとサポートしている。

高い技術力と充実した設備が好評で、「技術だけではだめで、設備も整えて初めていいものができる」と創業者の三崎晴夫代表取締役。その仕事ぶりに、従来からの取引先に加え、口コミでの新規注文も多い。

自動車の塗装は主に油性塗料が使われていたが、作業員の健康や環境への配慮から、近年はもっぱら水性塗料が使われるようになった。水性塗料は、シンナーなどの有機溶剤を使わないか、または割合をかなり減らし、代わりに水を使っているため、ほぼ刺激臭を感じない。しかし塗装後、完全に乾くまでに時間がかかるなどのデメリットがある。

また、油性塗料への国の規制が厳しくなったこともあり、特に新車の塗装に関しては、現在ではほとんどのメーカーが水性塗料を採用しているものの、修理となると、油性塗料を使う事業者がまだまだ多い。

乾燥速度が約30%もアップ 体に優しく従業員にも好評

それでも有限会社ミサキ自動車では、これからの時代を考えると、今から取り組むべきと、可能な限り水性塗料に切り替えることにした。提携するディーラーや損害保険会社からも、水性塗料での修理を求める声が大きくなってきており、何よりも作業員が楽に働けることが大きなメリットとなると考えた。

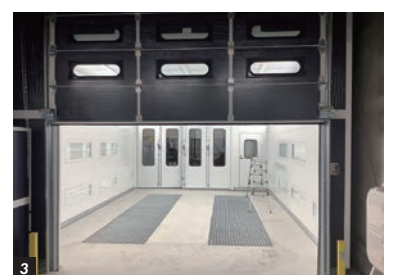
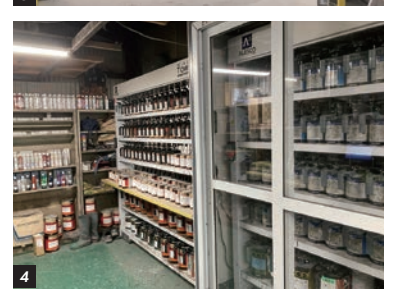
しかし、従来の油性塗料用のブースでは、水性塗料の乾燥に非常に時間がかかり、業務が滞るため、補助金で水性塗料用の塗装乾燥ブース「マックスコンバートMC-201WH」を導入した。プッシュプル型(吹き出し口と吸い込み口の間で空気の流れを作り、効率的に排



安全な走行のために、念入りにチェックする



1.2.3.乾燥ブースの導入で、水性塗料での塗装が能率的になった
4.塗料が並ぶ調色室。ぴったりの色に仕上げる



気する)のブースは、従来のブースと比べると、乾燥時間が約30%も短縮できる。空気が上から下へと流れるため、手元などにおいなどが発生しても、作業員が吸い込むことなく、そのまま排気される。

「マスクがなくてもおいが気にならないほど」と作業員にも評判がよく、乾燥がスピードアップしたことで、業務の能率も改善した。現在では、水性塗料では対応できない色の一部の車種を除いては、すべて水性塗料を使用。環境への影響を重視する取引先からの信頼も厚く、順調に業績を伸ばしている。

社員のための設備投資 労働環境の改善にも注力

設備投資は積極的に行う。ホイールの位置や角度を調べる四輪アライメントテスターは、専門的なために導入している同業者は少ないが、導入により整備の正確さをデータで顧客に示すことが可能となり、従業員が自信をもって働いている。同業者でさえ乾燥ブースはほこりよけ、塗装を美しく仕上げるためのものとの認識が強いが、三崎社長は「作業員が健康で長く仕事をするためのもの」と話す。

設備投資と併せ、労働環境の改善も進めており、業界では珍しい「残業なし」「週休2日制」を実現。しっかり休むことで仕事へのモチベーションがアップし、能率も上がったことから、売り上げは維持できている。

課題はこの業界で、若い人がもっと楽しく仕事ができるにはどうすればいいか。地域に根を張り、密着して業務を行いながら、若い世代の育成に目を向けている。「社員を大切にすれば、レベルの高い仕事ができ、顧客にも喜んでもらえる」と三崎社長は先を見据える。

Company Data

有限会社ミサキ自動車



外観

代表者名 三崎 晴夫
設立年 1990(平成2)年
資本金 3,000千円
従業員数 20名
主たる業種 自動車板金塗装・整備業
本社 〒693-0211 出雲市馬木北町5
電話 0853-48-0432
FAX 0853-48-0625
URL <https://www.misaki53.com/>